

まちの元気で日本を幸せにする！

～地域の元気創造プラン～

プロジェクト推進工程表

平成25年6月21日

プロジェクト1 地域経済イノベーションサイクル

ミッション

まちの元気で
日本を幸せにする！

ビジョン

- 地域のモノやチエを活かす
- ヒトや投資を呼び込む
- 新しい暮らしの土台を創る

アプローチ

- 自治体が産業、大学、地域金融機関、地域住民等と連携して、活性化に取り組む

プロジェクト1 地域経済イノベーションサイクル

「地域がその創意を発揮し民間資金を喚起する仕組み」

産学官ラウンドテーブルを 全国各地で構築

～それぞれの強みを活かして連携～

- ・ 事業者 = 企業家精神・柔軟性
- ・ 地域金融機関 = 事業の目利き、事業継続のリスク・マネジメント
- ・ 自治体(国) = 立ち上げの初期投資支援 1回限り(呼び水)
- ・ 大学等 = ノウハウの蓄積 (理論化・ケースメソッド化)

平成25年度

各地の推進体制づくりと先行実施

- ・ 地域金融機関の代表及び金融庁と推進体制を確認
- ・ ガイドラインの作成
- ・ 自治体及び地域金融機関向けに全国各地で説明会(金融庁と合同)
- ・ 地域経済循環創造事業交付金(先行実施67事業)

先行事業による外部効果の検証(67事業)

- ・ 2.1倍の投資効果(国の交付金と同額の融資を喚起)
- ・ 3.6倍の雇用の創出(持続的な雇用の創出)
- ・ 6.0倍の地元産業直接効果
- ・ 地域課題の解決
 - ・ 廃棄物等の商品化
 - ・ 一次産品高付加価値化
 - ・ 地元資源活用にぎわい創出
 - ・ 流出資金域内還元

平成26年度

～事業化プロセスに応じた
きめ細かな支援策の構築～

全国各地で事業化促進

- ・ 起業家誘致・人材サイクル事業(アドバイザー等)
- ・ スタートアップ資金の支援
- ・ 地域活性化ファンド(仮称)の組成 等

プロジェクト2 民間活力の土台となる地域活性化インフラ・プロジェクト

分散型エネルギーインフラ

- ・ 地域資源の徹底活用
(太陽光、小水力、木質チップ等、
余熱活用(コジェネ))
- ・ ICTを活用した需給調整(スマートシティ)
- ・ 地域への資金還元
(固定価格買取制度の活用等)

- ・ 民間資金を活用したパッケージインフラ
事業の地域への導入
- ・ 多様なエネルギー企業群とそのエネ
ルギー群を活用した民間企業群の創出
- ・ 災害時の自主電源確保

公共クラウド

- ・ 行政データのクラウド化とオープン
化の推進
- ・ 行政データの公開で民間活性化
(公開型)
- ・ 行政データを活用したシステムで
民間事業者支援(民間事業支援型)

- ・ 公開型クラウドアプリケーション
～汎用的オープンデータ対応
- ・ 民間事業支援型
～一定の対象事業を選定のうえ先行構築

機能連携広域経営型

- ・ 新たな計画圏域の設定
- ・ 最適な共通インフラの整備
- ・ 医療、雇用、教育等の行政サービ
スの高度化・効率化
- ・ 圏域内への民間資本の導入
(民間による事業化、コミュニティビジネス
の推進)

- ・ 医療・雇用・教育等の分野において、
人、モノ、金等の流れの強化のためのイン
フラを計画的整備

平成25年度

プロジェクト候補地調査

エネルギー賦存量、需要予測、初期投資、
事業収支 等

先行モデルの構築

公開型:観光、防災
民間事業支援型:
介護支援サービス、動産担保 等

プロジェクトモデルの調査・検討

市町村の枠を超えた圏域全体の高度化
民間投資のフル活用の検討 等

平成26年度

事業化に着手

- ・ 対象地域の選定
- ・ マスタープラン策定
- ・ プロジェクト推進組織の構築

本格システムの構築・稼働

- ・ 全国数力所のデータセンターの活用

対象圏域の設定とプラン策定

- ・ 生活の質の向上につながる官民連携と
民間資金の活用の具体化

⇒ 国家戦略特区の活用による重点整備も検討中